

一心太助の天秤棒

～前の籠には責任を、後の籠には信頼を、

肩に担いで売り歩く～



越谷市議員 白川 ひでつぐ

6月越谷定例市議会は、6月1日からはじまりましたが、冒頭から毎年繰り返される「議長の一身上の都合」を理由とする辞任のため、一年交代で新議長が選出されました。

議長ポストのたらい回し、今年も？

毎年6月議会の冒頭は、議長が一年で辞任をするため、議長選挙が行われ、新議長が就任する“年中行事”が今回も行われました。

しかも、自民党、公明党、民進党と無所属の会、刷新クラブの4会派（32名の議員の中で21名の議員を占めている）だけで、事前協議（談合？）で、正副議長を始め、4つの常任委員会の正副委員長ポストまでたらい回しをしているのではないかと、どの市民の厳しい批判が続いている中でした。

議長選挙の中で、唯一議会改革として取り組んでいる、議長立候補者による「議長公約」の文章化と全議員への配布だけは、今回も実行されました。

しかし、当選した議長公約の事後公開は実現されず、公約の検証は皆無の状態が続いています。

勿論、私は議長選挙の前に開催される会派代表者会議（7つの会派代表者で構成されている）で、一年交代の議長選挙に関して、せめて2年間の期間とすることや仮に一年で辞任を前提として議長公約を出すのなら一年間に出来ることややりたいことを明記すること等他会派に強く要望し協議を求めて来ました。

そこで、毎回私は議長選挙立候補に当たり、議長任期は2年間を目途することを始め、議長公約の市民への公開等を明記して臨んでいます。全く改善の見通しはありません。

今回の議長選挙の結果は、岡野英美議員（公明党）25票、白川秀嗣（自治みらい）

7票となり、岡野新議長が就任しました。議長選挙立候補にあたってのマニフェスト（所信）について

越谷市議会 自治みらい
代表 白川 秀嗣

一昨年4月の市議員選挙を経て、越谷市議会として、この間「市民に開かれた議会」をめざし、様々な議論が行われて来ました。

しかし、議長の一年交代が慣例化し、残念ながら本6月議会でも議長が一年で辞職されました。

私は、本年5月25日の会派代表者会議で、議長の一年毎の交代を変更するよう強く要望させて頂きました。

前回の市議会選挙は、投票率が史上最低の40%を割り込む結果となり、また市長選挙でも35%前後の低投票率が続いています。

これは、住民福祉の向上を目的としている議会のシステムが有効に機能していないことに大きな原因があります。

このため、議長の責任は勿論、議会全体が連続的な改革を推進していく覚悟が求められています。

同時に立憲民主主義の視点から、多数決の手法を少数者への分断と不信の増幅に使うのか、信頼と連帯のために使うのかも大きな課題となっています。

つきましては、「市民により開かれた議会」への歩みを更に進めるため、以下の10点を議長マニフェスト（所信）として明示し、議長の職責を全力で務めさせて頂くものです。

記

- 1、 議長就任期間の一年交代の慣例を改め、議長任期を2年間とするため、今後その環境整備に努めます。
- 2、 議長候補マニフェスト（所信）は、議長選挙後に当選した議長のものを出来る限り市民に公開します。
- 3、 前期に開催された、議会主催の「市政報告会」の実績を基に、様々な問題点を改善しながら再度開催するために努力します。
(裏へ)

- 4、 議会基本条例の制定を任期中の実現をめざし、特別委員会の設置等実現を図ります。
- 5、 議会の防災対策のため、現在の議場の議席・執行部席・傍聴席に防災ヘルメット、防災頭巾を設置します。
- 6、 議会傍聴者からの議会アンケートは、全議員に周知するようにします。
- 7、 閉会中の本会議場は、出来るだけ市民に開放して行きます。
- 8、 議会だよりの改善のため、市民がどの程度議会だよりを読んでいるのか調査を実施します。
- 9、 議長への手紙、メールを整備して、市民からの議会、行政への意見、要望を受けつける仕組みをつくりまします。
- 10、 休日、夜間議会を開催し、市民や小中学生等が傍聴して頂く様に工夫します。

以上

議長に就任された岡野議員の議長公約（あえて反対するほどの大きな指針の違いはありませんが、その実現手段の提案や他議員の参加と協力が必要です）実現のために、私が協力するのは当然なのですが、市民の皆さんとの連携も必要です。

そのためにも、議長公約が公開されることが前提ですが、公開することは全会派の了解とはなっていないので、残念ですがここに掲載することが出来ません。

また、来年の6月議会で、岡野議長が一年で辞任されないことを強く期待しています。

意見書案の審議を巡り紛糾

現在参議院で激しい論議が行われている「組織的犯罪処罰法改正案」（共謀罪法案）に反対する意見書を、私を始め自治みらいの4人、共産党2人、民進党と無所属の会4人が賛同者となり6月1日に議員提出議案と

して出しました。

通常は意見書の提案と審議、採決は議会最終日（つまり、今回は6月20日）に行うのですが、国会の閉会が6月18日予定のため、意見書が仮に採択されても送付先の国会が閉会していることから、先議（通常の議案審議に先立ち日程を早めて審議すること。一般的には議会初日、今回は6月1日に行うのが通例）を提案者の山田議員（共産党）からお願いがありました。

これを受けて議案を取り扱う議会運営委員会（議運）では、一旦先議を行うことに全会派一致して決定しました。

ところが、その日程を巡り激しい攻防が展開されました。

それは、6月1日冒頭での審議日、6月13日の議案質疑の日か、その中間の一般質問の初日6月7日なのか、断続的に議運が開催されました。

自治みらいは、この議案の取り扱いは内容に反対か賛成かを問うものではなく、あくまで国会開催中に間に合う様に事務的に処理すべきものであり、速やかに行う様に議会初日の審議を主張しました。

しかし、自民党、公明党、刷新クラブ、保守無所属の会が、6月13日の審議を譲らず、自民党の委員（伊藤治議員）からは採決による決定方法の示唆まで発言がありました。

これまで、議運では全会一致の原則で何事も決定してきた伝統があったのですが、本年3月議会での「議場への国旗掲揚」を巡り、これまでの慣例を一方向的に破り、自民党委員（この時も伊藤議員）が審議打ち切りの動議を提案し、多数決で強行するなど、今回も同様になる可能性が浮上しました。

そのため、止む無く6月13日の審議に同調しましたが、極めて事務的に取り扱うべき議案にも拘わらず、何故これほど抵抗するのか全く不明でした。

市長選挙にむけ高橋市長、3選を表明。

6月9日、高橋市長は、本年10月に実施される越谷市長選挙に、3期目の立候補を予定していることを表明されました。

本庁舎の耐震化対策が、後手、後手に回っている現実が、市長公約の「安心、安全さいたまN01」の対極にあることを含め市民の審判を受けることとなります。